

終末期における歯科医療

日本歯科医師会常務理事

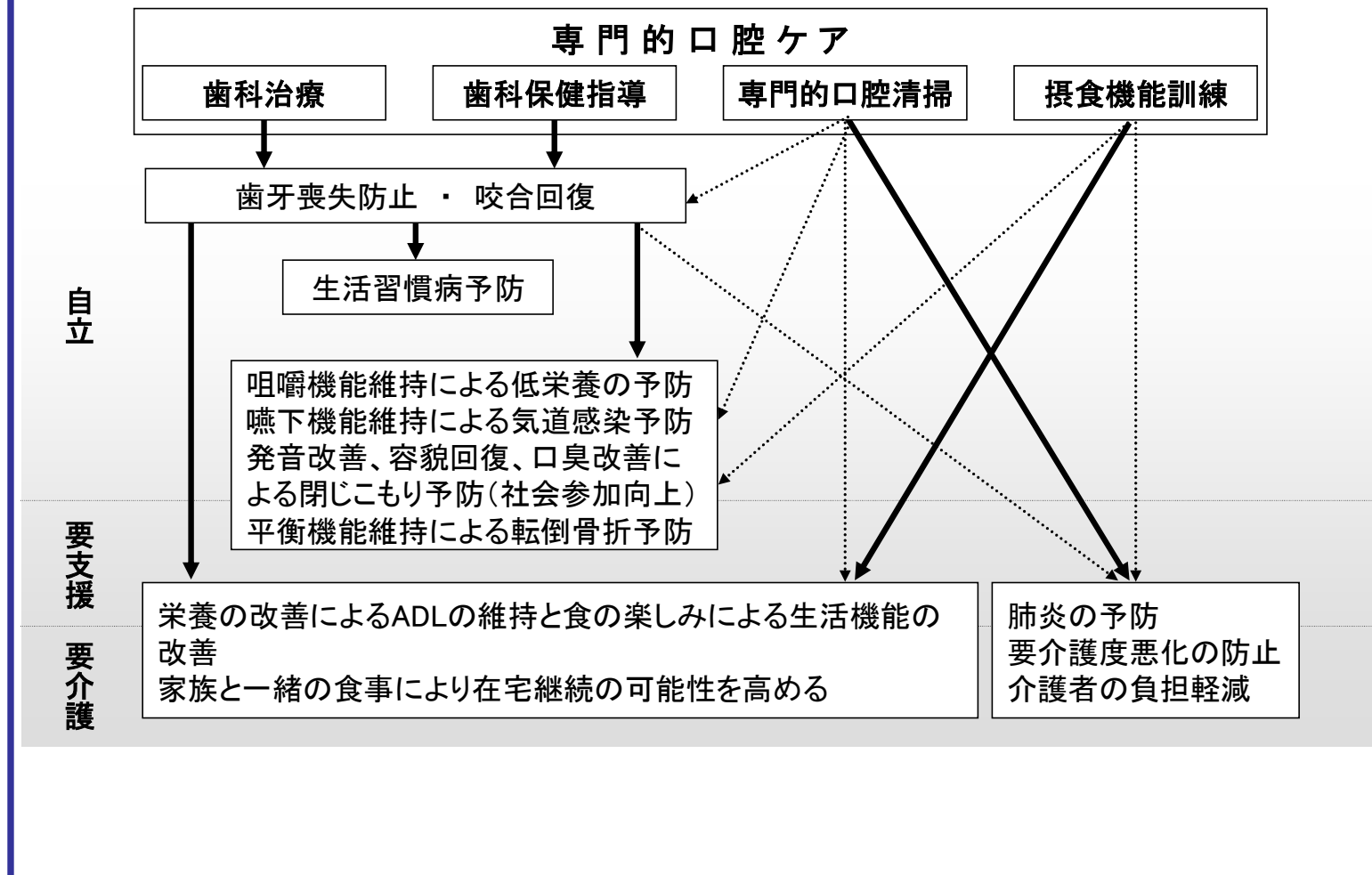
池主憲夫

生きるとは食べること

“口にはひとの
ほとんどの幸福と不幸が集中する“

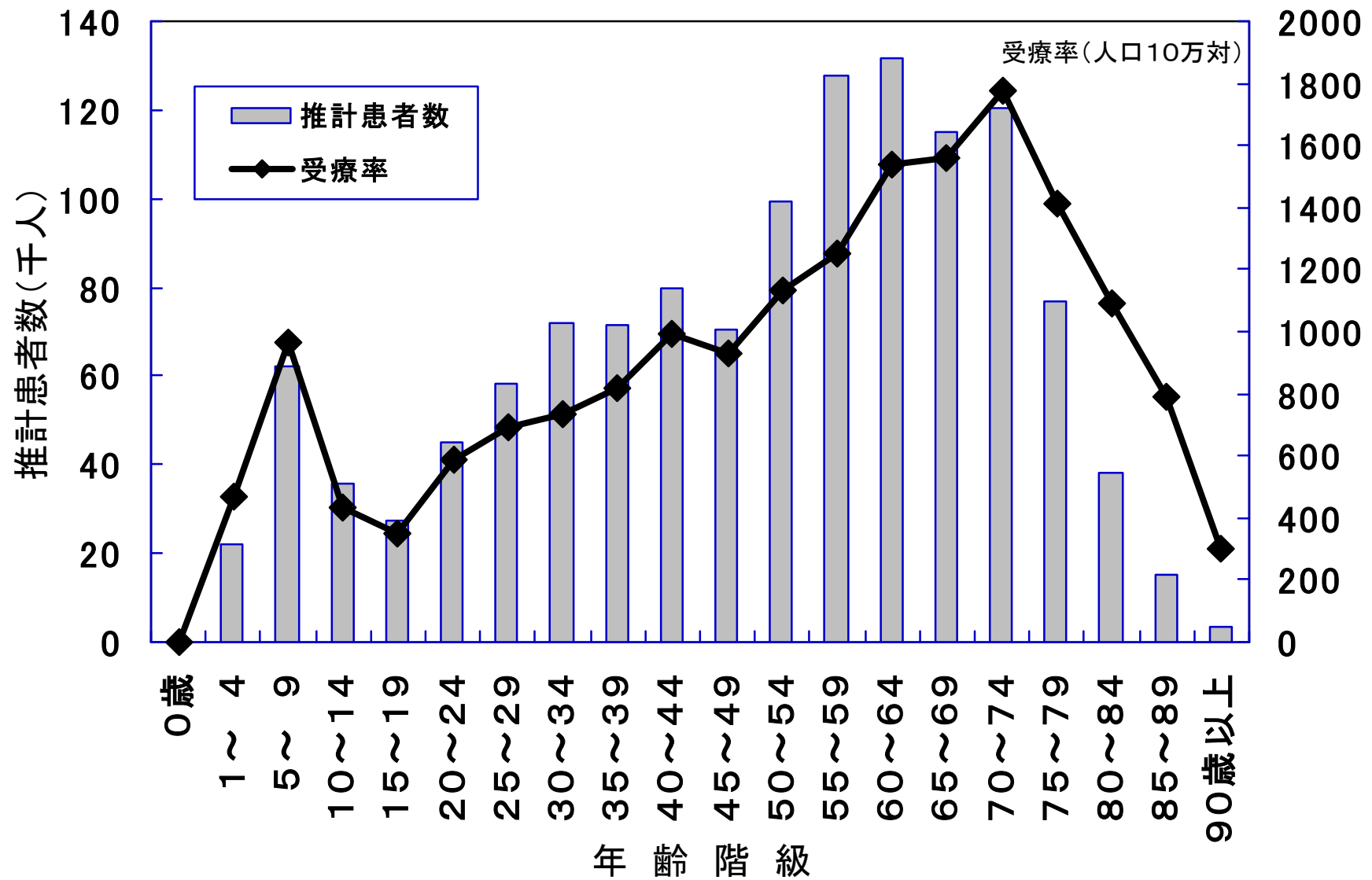
鷺田清一(大阪大学教授、臨床哲学):「食は病んでいるか」 ウエッジ

専門的口腔ケアが高齢者の健康や生活機能に与える効果



高齢者リハビリテーション研究会中間報告「高齢者リハビリテーションのあるべき方向」(2004年1月)

年齢階級別歯科推計患者数及び受療率



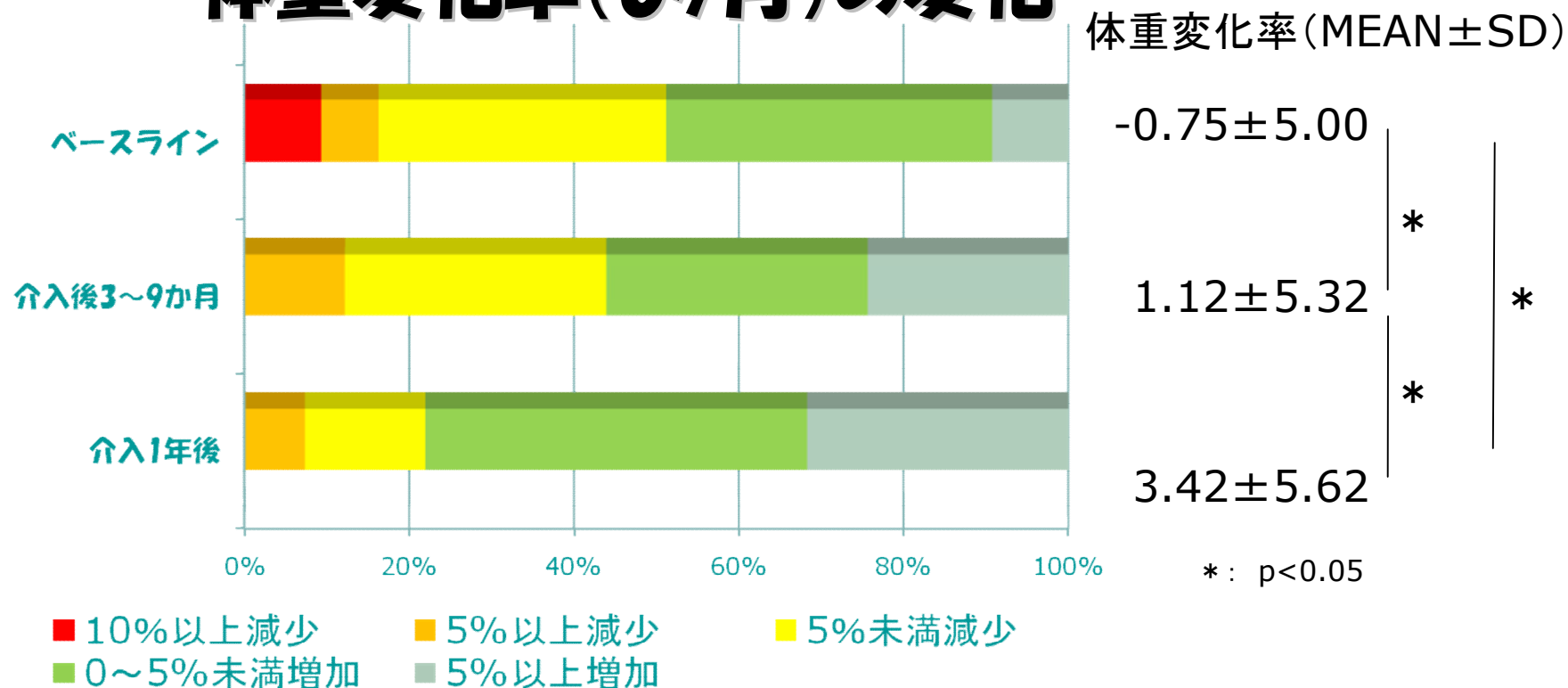
(2005年厚生労働省患者調査)

終末期における歯科対応

1. 口腔に起因する疼痛の緩和
2. 摂食機能の維持と栄養状態の改善
3. 肺炎防止
4. 顔貌・コミュニケーションの維持

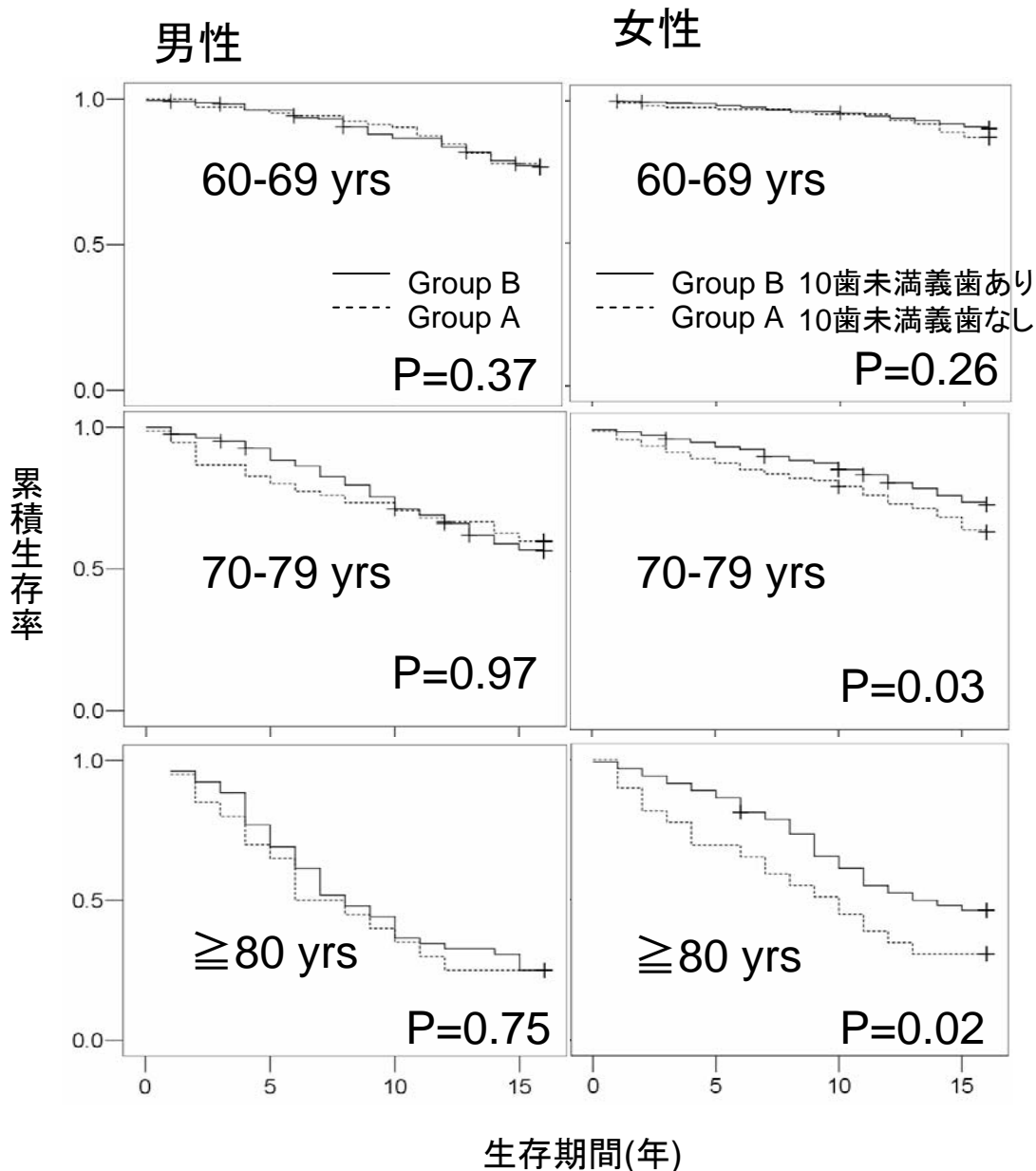
多職種連携による摂食支援による栄養改善

体重変化率(6ヶ月)の変化



施設入所者**50名**(男性**13名**、女性**37名** 平均**BMI19.1**)に対し、多職種による摂食支援カンファレンスにおいて情報を共有し、立案された摂食機能評価を含むケアプランを実施した結果、**6ヶ月後および1年後の評価時に統計学的に有意な栄養改善および体重増加が認められた。**これにより前年度に比較して、**肺炎の発症者を3割減少することができた。**
(菊谷ら 日本老年歯科医学 in press 2008)

義歯装着の有無は生命予後に関連する因子の一つである



沖縄県宮古島在住の40歳以上の住民5,688名を対象に口腔内状態と生命予後との関連について15年間のコホート調査を行った。その結果、男性では、機能歯数10歯以上群では、10歯未満群に較べて有意に累積生存率が高いという結果が示された。一方、10歯未満群をさらに義歯の有無で比較すると、女性では有意に義歯装着群が累積生存率が高かった。この結果から、義歯の装着は特に高齢者において、咀嚼機能の回復にとどまらず、生命予後にも関連する因子の一つであることが示された。

Fukai K et al.: Mortalities of community-residing adult residents with and without dentures, Geriatr Gerontol Int 2008,8:152-159